

令和7年度 第1回学校運営協議会議事録

静岡県立沼津特別支援学校
愛鷹分校

1 日 時 令和7年5月13日(火) 午前10時00分から午後12時00分

2 会 場 静岡県立沼津特別支援学校 愛鷹分校 ミーティングルーム

3 校長挨拶

- ・学校評議員会から学校運営協議会に変わってからは、委員の皆様とその所属する組織のお力を生かして「いかに学校を援助していくか、応援していくか」ということを考える取り組みになった。
- ・近隣地域にとって、「どうしたら魅力的で必要な学校になるか」を大きな目標にし、様々な取組を行い、昨年度末は大勢の中学生が愛鷹分校の入学を希望した。
(入学生の増加は、学校の魅力の指標の1つであると考えている。)
- ・本年度も忌憚のない御意見をいただきたい。

4 委員の委嘱（任命状）

5 委員長の決定 福田 和男 様 （門池地区連合自治会長）

6 自己紹介

福田 和男 様 （門池地区連合自治会長）

- ・平成29年から門池地区連合自治会長を務め、愛鷹分校に関わっている。
- ・住民のニーズの変化に伴い、地域も変わっていかなければいけない。
- ・一般社団法人（門池地区地域振興プロジェクトチーム）を立ち上げることに
なった。地域振興と地域の課題解決を中心に行っていく。

鈴木 隆臣 様 （株式会社駿東ドリームビレッジ 取締役）

- ・社員の面談、相談、ハラスメントの窓口などを担当している。
- ・グループ会社に当たる富士山高等学院（日本航空高等学校通信制高校のサポート校）が本年度富士駅前に開校し、その教育顧問を務めている。
- ・特別支援学校の教員を35年勤め、愛鷹分校は開校から4年間関わっている。開校当初から地域とつながることをキーワードとし、学校経営を行った。
- ・学校運営協議会の委員としてもそのキーワードを大切にした。愛鷹分校には熱い思いがあるので、力を貸していきたい。

越前 徹 様 （有限会社イーリード 代表取締役）

- ・有限会社イーリードは、株式会社つながり（A型事業所）と株式会社ゆう（B型事

業所)、というグループ会社がある。

- ・イーリードとしては、門池地区にある県立工科短期大学で、県の委託事業の障害者の職業訓練を行っている。
- ・本業は、物流業で、アパレル関係の在庫管理等から始まり、現在主力の業務は野菜・果物の流通加工である。沼津中央青果市場内に加工場を構えて、市内のA型やB型の利用者が仕事をしている。
- ・NPO法人オールしずおかベストコミュニティ（県の委託事業を専門で行う法人）の代表を務めている。県下全域で働く障害者のために様々なことに取り組んでいるので、こちらの法人もよろしくお願いしたい。
- ・中小企業家同友会には、障害者問題委員会があり、その委員長を務めている時期に、特別支援学校の教員と交流を深めてきた。現在は、県の副代表理事を務めている。今年から障害者問題委員会は虹色共生委員会に変わったが、障害者の雇用について引き続き研鑽していく。
- ・イーリード、オールしずおか、中小企業家同友会合わせて、今後もよろしくお願いしたい。

駒形 英史 様 （株式会社秋山機器 管理部部長）

- ・自動車の整備や販売の仕事を長年務め、総務として入社し、現在は社内の様々な仕事に携り、愛鷹分校の受け入れの窓口を担っている。
- ・就労支援事業所の施設外作業の継続について社内で検討した際に、現場担当者から、戦力になっているので継続してほしいという声上がり、その以来、継続して受け入れている。
- ・ワーク地域では、年度の初めには、工場見学をしたり、製品を手にとってもらったりしながら、仕事をする上での生徒の自信になるように配慮している。
- ・秋山機器は、工業用板金製品を制作している。（空気清浄機の外側のような）薄物の金属の板を切って曲げたり、溶接をしたりしている。（ワーク地域では）塗装をしないステンレス製品に手垢等がつかないようにウエスで拭き取る作業をしてもらっている。

築紫 典子 様 （愛鷹分校PTA副会長）

- ・3年間PTA役員を務めている。子供や親の目線で協議会に関わり、発言をしたいと考えている。
- ・愛鷹分校をさらに知っていただいて、子供たちが学校生活を快適に過ごせるようにしていきたい。
- ・保護者にまだ協議会の活動が知られていないと思った。情報発信をして、保護者全員に知らせるようにしていきたい。

7 協議

① 昨年度の状況共有

（福田委員長）

昨年度、保護者が（学校運営協議会に）参加した方がよいという意見は私も出してい

たと思う。本年度は、ぜひ（保護者の参加を）やるべきである。

（鈴木委員）

- ・昨年度、「学校パンフレットを生徒自身を作る」ということになったが、これは、最終的にどう活用されたのか、どういう所に配布されたのか。
- ・また、本年度、1年生は定員を満たしているが、その要因はどのように考えているのかを教えてください。

＜鈴木委員の質問に対して＞

（部主事）

- ・パンフレットについては、中学生に直接配布することができなかったので、中学校の先生方が来校した際に配布させていただいた。
- ・本年度は、生徒がパンフレットをもって、学校説明に行く機会を作りたいと考えている。

（校長）

- ・受検を希望する中学生が増えたことについては、いろいろなことが複合的に影響していると思われる。地域に浸透してきたということ、昨年度は一定数の希望する中学生がそろったということ、ホームページの刷新等、学校の魅力発信を行ったことも影響している。
- ・県から学区の再編についても示された。定員が満たされていない場合、学区外の生徒も受検できることになり、他分校について関心が高まった。そのことも影響していると思われる。
- ・一昨年から定員増となるように魅力を高めていきたいと願い、運営協議会で真剣に語り合ってきた。きっとそのことがいろいろなことに結びついたと考えている。

（鈴木委員）

- ・職員が魅力発信について考えてきたというのが大きな要因ではないか。

② 本年度の取り組み（学校経営計画・グランドデザインについて）

（越前委員）

- ・地域というワードが多く出ているが、地域の中に何がどこまで含まれているのかが疑問として残った。
- ・専門の自立活動の「生徒が自分の課題を認識し達成する」ということは、職業訓練を行っているのとても共感した。
- ・自己理解の促進は、育てていく上での課題である。自分が何物であるのかわかっていなければ、その後の職業選択も外的外れなものになっていく。
- ・学校経営計画に「主体性」や「本人の夢」という言葉が書かれている。社会に出ることを意識したときに、その人の適性とやりたいことがどこまで整合性が取れるか。生徒、教員、保護者が一体となって取り組むテーマではないかと感じた。

(駒形委員)

生徒を増やす取り組みの目的は何か。

(副校長)

2年生と3年生は定員に達していない学年もあり、学校としては定員を充足させることを希望している。

(駒形委員)

学校として営利目的でないのに、定員割れを心配するのはどんなことが原因か。

(校長)

単純に定員割れという状態像を1つの指標として、学校の教育内容の充実やPRなどに取り組んできたということである。

(駒形委員)

少子化の中、対象の生徒がいなかったり、年によって人数が変わったりするので学校をPRすることで、他の学校や事業所などと人の取り合いになるのはよくないし、逆効果になる。

(校長)

御指摘をありがたく受け入れさせていただく。一人一人に合った進路選択というのが大切であり、多様な進路先が地域にあるので、その他を押しつけてまで自校をPRするという意図はなかった。

(駒形委員)

昨年度の個性を生かす取り組みはとてもよかったと思う。生徒たちの選択肢を増やし、普段の生活の趣味を広げたり、仕事につなげたりすることができる個性を伸ばしてほしい。

(福田委員長)

「生徒の個性を大切にしながら、一人一人に合った教育をしていくということ」を共通のワードとなる、今後もそのことにフォーカスして「熟議」していきたい。

(築紫委員)

- ・先程の「子供たちの選択肢を増やす」ということが、これから生きてく上でとても大切になると思う。
- ・(学校経営計画の)「チーム」ということについてもよいと思った。教員がチームになるということは、生徒達に必ず伝わっている。

(福田委員長)

新しい委員の意見も聞くことができた。貴重な各委員の意見を今後の学校運営協議

会に生かしていきたい。

③ 地域とのつながりのある学びについて

(鈴木委員)

- ・ワーク工房とワーク地域の2つの作業学習が、週の授業時数の多くを占めている。その中で「どのように地域と関わっていくか」ということを考えている。
- ・開校当初からワーク地域を行っている事業所が、7～8か所あり、もう10年以上を受け入れて生徒を育てていただいている。1つの財産だと言える。
- ・ワーク工房で考えると、販売を通して、地域に向けて製品を根付かせる取り組みを継続していきたい。

(福田委員長)

- ・越前委員から地域の範囲というお話があったが、分校のある地域、生徒の居住地域などがある。ワーク地域は、分校のある地域で行われている。
- ・今回学校作成した年間計画の表の作成もよい挑戦だと思う。今後もさらに充実させていければ、分校らしい地域とのつながりがわかるカレンダーになると思う。

(築紫委員)

子供たちが作ったものがお客さんの手に渡るのは、作っていることが意味のあることになるし、自信につながると思う。

(駒形委員)

ワーク地域受け入れ先の他社にも、受け入れの仕方を見直す機会となるような取り組みが必要であると思う。

(福田委員長)

年度末に学校関係者評価のアンケートを行うが、今まで出された意見をアンケートの項目に反映させた方がよい。

(越前委員)

ワーク地域を受け入れている事業所が、どのような感想、どのような手ごたえを得ているのかを聞いてみたい。ワーク地域の取り組みを広げ、生徒のためになると感じた。

(福田委員長)

- ・一番大切なのは、子供を真ん中に置いて、子供の未来に対して情報交換していくこと。学校運営協議会のあり方としては、学校を核とした地域づくり、地域によりそう学校作りという両面の部分がある。
- ・単なる自治会活動でなく、ステークホルダーが協力するコミュニティということに魅力を感じ、長年学校運営協議会に携わってきた。

8 まとめ

(部主事)

- ・保護者とつながりを大切にする、個性と大切にする、個性を生かした選択肢を増やす、授業の取り組みや活動を増やしていく。
- ・今後の課題としては、地域をどのように捉えるか、学校関係者評価の検討、作業製品をどのように地域に定着させていくかの見直し、ワーク地域先との情報共有や作業内容の見直していく。

(副校長)

- ・本日寄せられて意見を1つ1つ精査して、学校経営に生かしていきたい。
- ・8月の学校運営協議会は、保護者がどのように参加するか検討したい。

(校長)

- ・非常に内容の濃い学校運営協議会になり感謝申し上げる。
- ・お力添えをいただいている方々同士のつながりや結びつきを豊かにしていくことの大切さを本日は感じる事ができた。

その他

○情報発信として

- ・生徒作成の学校紹介パンフレットを生かしていく。
- ・学校からのお便りを充実させていく。
- ・かどいけ通信に積極的に記事を掲載していく

(掲載の希望があるときは1ヶ月前に申し出る)

- 一般社団法人門池地区地域振興プロジェクトチームについて（福田委員長から）
4月21日に一般社団法人を立ち上げ、ホームページを作成した。愛鷹分校とのコラボを考えている。布工房に記念品の作成等もお願いしたい。